

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)					
審査委員会 受付番号	2017-1002	利用するもの	全ゲノム情報(SNPアレイ情報含む)、基本属性情報(身長、体重、年齢、血液型、性別)、アンケート情報、検査値情報		
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構		分担 研究機関	資生堂グローバルイノベーションセンター・ インキュベーションセンター	
研究題目	皮膚特性に関連する遺伝要因の探索と皮膚を対象とするゲノムコ ホート研究の可能性検討		研究期間	平成29年4月 ~ 平成 29年12月	
実施責任者	峯岸直子	所属	東北メディカル・メガバンク機構	職位	教授
研究目的と意義	東北メディカル・メガバンク機構(以下、甲)として、株式会社資生堂(以下、乙)が実施中の「肌体質(健常ボランティアの皮膚性状)に関する遺伝的要因の研究」に協力し、甲の重要課題である「アトピー性皮膚炎など皮膚疾患の遺伝的要因と環境要因の相互作用研究」においてその知見を利用する。				
研究計画概要	<p>甲が実施中のコホート研究では、被災地域でのアトピー性皮膚炎の増加が報告されている。また、甲のコホート参加者の多くは高年齢層にあることから、研究対象者の中では乾燥性掻痒症などの罹患率も高いことが予想される。これらの皮膚疾患トラブル発生の環境要因と遺伝要因の研究は甲の重要な研究テーマであり、アトピー性皮膚炎については、甲と東北大学病院皮膚科との共同研究も検討されている。皮膚特性は、遺伝要因と環境要因の影響を受け、その相互作用が皮膚特性の個人差につながり、皮膚トラブルの起こりやすさにも影響することが想定される。これら皮膚疾患トラブルには、皮膚の乾燥性や防御機能、過敏性などの皮膚性状特性を決める遺伝的要因が密接に関係する。例えば、アトピー性皮膚炎に関する遺伝子関連解析では、皮膚のバリア機能に関わる遺伝子変異との関係などの報告がある。また、アレルギーや炎症などの免疫学的機序による薬物副作用と、一部の組織適合性抗原の遺伝子多型との関係なども報告されており、スキンケア化粧品、皮膚外用剤等による皮膚トラブルにも同様の関連が見いだされる可能性がある。さらに、皮膚を掻破する行為自体がアトピー性皮膚炎を悪化させるとの経験的知見について、これを裏付ける遺伝子レベルの実証も進んでおり、物理的・化学的刺激による掻痒感の発生を予防するスキンケアが、アトピー性皮膚炎の予防や治療につながる可能性が示されている。</p> <p>本研究では、甲は、乙が実施している健常人ボランティアの調査研究に協力し、皮膚性状の情報と遺伝的形質に関する関連解析を共同で実施する。乙が実施した健常人ボランティアのジャポニカアレイ解析のデータから、甲が解析した全ゲノム解析情報を利用して全ゲノム情報を確率高く推定(インピュテーション)し、それらを用いて、これらの参加者の皮膚性状に関する調査情報との関連解析を実施する。この研究を通して、皮膚性状特性に関する遺伝的要因の頻度等の推定が可能となることが予想される。甲は、それらの情報を利用して、アトピー性皮膚炎等皮膚疾患皮膚に関するゲノムコホート研究において収集すべき情報の種類や、調査規模の検討を行う。</p>				
期待される成果	本研究により、皮膚の性状(湿度、油分、キメ、炎症のおこしやすさ、皮膚疾患、皮膚トラブル経験(外用耐用品)等)と関係が深い遺伝的要因の情報が得られ、甲のゲノムコホート研究の中でのアトピー性皮膚炎等の皮膚疾患の解析においても、それらの遺伝的要因をリスク因子の1つとして利用することが可能となる。				
これまでの倫理 審査等の経過お よび主な議論	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大学東北メディカル・メガバンク機構 倫理委員会「ToMMo参照ゲノムパネルを利用したGWAS解析後の希少変異推定の共同研究」審査、承認(受付番号:2016-4-056) ・株式会社資生堂 ヒト試験倫理審議会審査、承認(平成27年7月16日 試験番号:C01238)、「肌体質に関連する遺伝子に関する研究」審査、承認(平成28年5月10日 試験番号:C01333) 				
倫理面、セキュリ ティー面への配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいた管理を実施する。 ・個人情報の漏洩については万全の注意を払い、個人同定のリスクを下げるため、配布情報には遺伝子型などは含めない。 ・東北メディカル・メガバンク事業の試料・情報分譲審査委員会の定めるセキュリティポリシーを遵守する。 				
その他特記事項	企業等との共同研究				
* 公開日	平成29年10月18日				